

第2支部・平成23年度活動報告

佐々木美貴

平成23年度第2支部活動は、昨年度に引き続き、首都圏におけるデザインの問題として、多様で密な人口構成の住まい方をキーワードに会員相互のつながりを創り出す事を目指して、環境造形デザイン部会と筑波大、もうひとつの住まい方推進協議会の協力のもと、活動を行いました。

1回目に、2011年6月13日「自由と生存の家」見学会を行いました。

2008年年末から正月にかけてのニュースとして衝撃的な話題の「年越し派遣村」。生活保護の支給を受けるにも、住まいが確保されていないと対象にならない。そんな社会のひずみへの取り組みを行っている、フリーター全般労組による「自由と生存の家」を、もう一つの住まい方推進協議会、日本デザイン学会第2支部合同の見学会を開催しました。東京の新宿区にある四谷3丁目の駅から、徒歩3分の好立地に、2棟のアパート、計16室を持ち、そのうちの8室は、1階の4室を8室にボランティア等で改修して、小さいながらも個室にてプライベートを保つ空間として作り直しました。見学会には、両団体から20名の方の参加を頂き、アパートの見学会の後、近隣貸し会議室で、これまでの経緯から、運営状況等を聞き、会場からは、見学会に参加された感想から、今後協力の申し出までと、様々なディスカッション、交流が行われました。デザイン学会参加者から、都市の社会問題を考えることで、身近なまちづくりにつながると発言頂き、この見学会開催の意義を感じられました。

2回目に2011年度日本デザイン学会の秋季企画大会が11月12日に本郷にある東京大学工学部2号館で行われ、そのカフェサロン(懇親会)を第2支部が担当しました。大会のパネルディスカッション「デザインに何が出来るか」に登壇された、司会の尾登誠一氏(東京芸大)パネリストの伊藤真市氏(宮城大)、中川聡氏(東京大学)、堀江政広氏(東北工業大学)、山崎真湖氏(アドビ)、長谷高史氏(愛知芸大)、村上存氏(東京大学)にテーブルごとの話題提供者になって頂き、総勢55名の参加者が3階会議室に集い活発な意見交換の場となりました。初めに話題提供として、認定NPO法人まちぼっとの奥田裕之氏に東京と被災地を結ぶ復興住宅活動と新しい市民ファンド「ソーシャルジャスティス基金」のお話でカフェサロンの口火を切って頂きました。また最後には、昨年同様学生プロポジション展示の特別賞の表彰を行い、参加頂いた学生の皆さんにも学業の励みとなったようです。パネラーの方たちとの語ら



上：見学会。中：カフェサロン。下：フォーラム。

いで、参加者・学生たちの各人の考えや、活動を更に知ることができました。

3回目に今年度の第2支部の活動は、都市の問題をテーマに取り上げており、その関連フォーラムとして、もうひとつの住まい方推進協議会主催の【テーマ】どうするサービスつき高

高齢者住宅—改正高齢者住まい法を問う— 2011年11月27日(日)(13:00～17:00) 芝浦工業大学 芝浦キャンパス 802教室 (後援 日本デザイン学会) のご案内を第2支部ならびに日本デザイン学会の会員にご紹介させていただきました。

高齢化率が23%に達し、世界に類を見ない超高齢社会を迎えている日本社会。今後、介護を必要とする高齢者が加速的に増えていくこととなりますが、現状でも高齢期のサービスと一体となった住まいは絶対的に不足し、住まいやサービスの質の面でも多くの問題を抱えています。その中で今年4月、高齢者住まい法が改正され、新たにサービス付き高齢者向け住宅制度が導入されました(10月20日施行)。改正法は、高齢者の住まいが直面している課題に答えられるのかを、このフォーラムでは議論をしました。

基調講演を「これからの高齢者住宅の可能性」と題して、園田真理子氏(明治大学理工学部建築学科教授)にご講演頂き、自治体の立場から、「法改正と東京都の対応」を佐藤章氏(東京都住宅政策推進部企画調整担当課長)にご報告頂き、その後3つの事例報告 1生活科学運営の考える地域包括ケア(浦田慶信氏・生活科学運営代表取締役) 2プエルト横浜(中村久子氏・NPO法人W. Co.たすけあいぐっぴい元理事長) 3大阪・NPO友-友の家(小林房子氏 代表理事)にお話を頂きました。次に、田村明孝氏(タムラプランニング&オペレーティング代表)に問題提議をして頂いた後、登壇者全員で、ディスカッションを行い、各人の老後感、必要な生活レベルから、どのような「最期」を迎えるかの話まで至りました。会場にはデザイン学会の参加者も含め160名の参加者。NHKの取材、新聞記者の方の来場もあり、世論の注目の話題でありなお且、高齢化の深刻な状況を危惧している社会状況を反映しているようでした。フォーラムでは、現状の施設のどの部分に不足があるのか考えながら、「サービス付き高齢者向け住宅」が制度のすげ替えだけに終わらず、市民自らがサービスをどのように捉え、地域から高齢者社会を支えていかななくてはならないとの意見交換がなされました。

3回の活動にたくさんのご参加を頂きありがとうございます。第2支部は、関東地区と参加人数が多く、広範囲の地域を担当しております。このような、見学会、懇親会、フォーラムを担当できることは第2支部の交流としても大変有効と考えております。

1) 地域生活文化研究会の一環として、学外演習を、平成23年8月30日(火)～9月1日(木)に、京都府宮津市由良地区において実施した。テーマは「地域のために汗し、地域の自然を体感する自然共生演習」とし、参加者は、京都府立大学(三橋+23名)、滋賀県立大学(面矢+3名)、宮津高校(教員2+7名)を含む計39名であった。演習では、もみじ公園の整備、由良小学生を対象とした植物標本づくり、田舟遊びなどを実施した。「自然共生教育」を基本姿勢として、高大連携、地域連携による生活文化体験学習を行うことができた。

2) 日本デザイン学会第4支部研究発表会を、平成23年12月10日(土)、岡山県立大学にて開催し、以下の口頭発表と研究交流が行われた。当日の発表などのスケジュールは下記の通りで、口答発表21件、対話発表8件の発表が行われた。

- 1, 開会挨拶9:30(三橋俊雄支部長)
- 2, 口頭発表9:35～10:50@3312教室(司会:谷本尚子)
- 01:尾崎 洋「岡山県立大学情報デザインコースによる生涯学習事業」(岡山県立大学デザイン学部)
- 02:貞島庸佑「情報デザインコースの社会貢献活動の取り組み 井山宝福寺との共同活動」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科情報デザイン学専攻)
- 03:鳥居秀作「マルチタッチディスプレイを用いた音響機器のインタフェースデザイン」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)
- 04:光森雅明「LEDによるインタラクティブな表現の調査と制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)
- 05:井口裕子「織テクスチャーを活かした吸音効果のあるインテリアテキスタイルの提案」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科造形デザイン学専攻)
- 3, 口頭発表11:00～12:00@3312教室(司会:益岡了)
- 06:荘 心宜「日本時代の北客家荘内における食文化」(京都府立大学大学院)
- 07:陳 譽云「台湾・南投県竹山地域における竹と生活文化・生活技術」(京都府立大学大学院)
- 08:佐々井俊文「京都府宮津市由良地区における自然共生的かつ自立自存の生き方」(京都府立大学大学院)
- 09:袁 藝文「中国における高齢者のタウンモビリティ電動車の利用実態調査から」(京都府立大学大学院)



4, 対話発表12:30～13:30 @ 3311 教室

- P01: 矢浦有理江「色覚特性による見えの違いを活かした環境グラフィックス」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科造形デザイン学専攻)
- P02: 朴 貞淑「地域に密着した共生型住環境構築に関する研究」(岡山県立大学デザイン学部)
- P03: 貞島庸佑「映像のための身体的インタフェースのデザイン」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科情報デザイン学専攻)
- P04: 鳥居秀作「マルチタッチディスプレイを用いた GUI プロトタイプの制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)
- P05: 光森 雅明「インタラクションのある LED 立体表現デバイスの制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)
- P06: 神原啓太「EPUBでのマニュアルデザインの調査・研究と制作」(岡山県立大学デザイン学部デザイン工学科)
- P07: 尾崎洋「岡山県立大学情報デザインコースのワークショップ活動」(岡山県立大学デザイン学部)
- P08: 三原鉄平「竹集成材に適した工法及びデザインの開発」(岡山県立大学デザイン学部)

5, 口頭発表13:40～14:40 @ 3312 教室 (司会: 久保雅義)

- 10: 土井俊央「評価対象製品のタスクに対応したユーザビリティチェックリストの提案」(和歌山大学大学院システム工学研究科システム工学専攻)
- 11: 安井鯨太「UMLモデリングによるコンセプトに基づく画面設計の提案」(和歌山大学システム工学部)
- 12: 佐治寛典「HDTを応用した製品カタログの作成フレームワークの提案」(和歌山大学大学院システム工学研究科デザインエルゴノミクス研究室)
- 13: 柳本聡「メンタルモデルにおける Functional Model と Structural Model による製品特性の把握」(和歌山大学システム工学部デザイン情報学科デザインエルゴノミクス研究室)

6, 口頭発表14:50～15:50 @ 3312 教室 (司会: 尾崎 洋)

- 14: 山岡俊樹「機器操作部, GUI に対するメンタルモデル構築方法の試案」(和歌山大学システム工学部デザイン情報学科)
 - 15: 平田一郎「GUIデザインパターンを活用した設計手法の検討」(兵庫県立工業技術センター)
 - 16: 東野誠「放射線量計のユーザインタフェースデザイン調査」(岡山県立大学大学院デザイン学研究科デザイン工学専攻)
 - 17: 前川正実「利用状況に関するプロセス状況テーブルの3種類の活用と展望」(株式会社 操作デザイン設計)
- 7, 口頭発表16:00～17:00 @ 3312 教室 (司会: 朴 貞淑)
- 18: 久保雅義「東日本大震災の被災弱者の現状と課題」(京都工芸繊維大学)
 - 19: 谷本尚子「所作から見た椅子」(大阪人間科学大学環境・建築デザイン学科)
 - 20: 坪郷英彦「ニュータウンと工芸 多摩丘陵地域のニュータウンを事例として」(山口大学人文学部)
 - 21: 三宅宏明「液晶ディスプレイを用いた色記憶再現による色の移行について」(山口大学大学院理工学研究科)

8, 閉会挨拶17:00～17:05 @ 3312 教室 (久保雅義副支部長)

第4支部・平成24年度活動計画

支部長 三橋俊雄

第4支部では、1) ユニバーサルデザイン研究会, 2) インタラクションデザイン研究会, 3) 地域生活文化研究会, 4) 近畿・中国・四国地区研究会など関西地区における学術研究活動を行う。ユニバーサルデザイン研究会では、実践的なUD活動を推進するための研究会を開催する。インタラクションデザイン研究会では、当該分野の研究者やデザイナーを招いて講演会を開催し、新たなライフスタイルとインタラクションデザイ

ンの関係について参加者と議論する。地域生活文化研究会では、フィールドワークを通して生活文化のあり方を見つめる活動を積み重ねていく。近畿・中国・四国地区研究会では、横断的なテーマ設定で研究会を企画開催し、地域間・大学間連携による議論の場を創出していく。また、メーリングリストを活用し、地域ネットワークのさらなる拡大をめざしていく。以上のほか、関連学会支部との研究会等の共催も、支部メンバーの協力を得て検討していく。

Design シンポジウム 2012 講演募集

申込締切：2012年6月1日（金）

開催期日：2012年10月16日（火）、17日（水）

会場：京都大学百周年時計台記念館（京都市左京区吉田本町）

共催：日本建築学会（幹事学会）、日本機械学会、精密工学会、

日本設計工学会、日本デザイン学会、人工知能学会

協賛：The Design Society、横断型基幹科学技術研究団体連合、日本認知科学会、International Association of Societies of Design Research

1. 趣旨：

21世紀を迎えて、社会環境は急速に変化し、私たちが生み出し続ける人工物の在り方も大きな変革を迫られています。今日、国際化、都市化、人口変動、巨大災害の発生、環境問題の深刻化など、人間の生命と暮らしを脅かす多くの問題が発生していますが、これらの問題を解決するためには、個々の人工物を超えて、人工物相互の関係や人工物と人間・社会・経済・環境との関係などの多様な関係性を含むシステムに関わる複雑な問題に取り組む必要があります。人工物についても、ライフサイクル全般にわたって、これまで以上の高付加価値を創出し得る「持続可能な成長のメカニズム」を早急に実現することが必須の課題となっています。しかしこうした社会が直面している問題は、従来の縦割り型ディシプリンに基づくアプローチでは解決することはできず、その問題の態様を把握することすら困難であることが指摘されています。すなわち、設計やデザインと呼ばれる問題領域においては、このような状況を打破するための、横断領域的な知識の活用と多様な協働の形態による新たな取り組みが強く求められています。

以上の背景のもと、日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、日本デザイン学会の5学会は、「設計」や「デザイン」を包含する上位概念としての“Design”を対象とした“Design Symposium 2004”を2004年7月に開催し、“Design”を研究する新たなコミュニティを創出することに成功しまし

た。その後、人工知能学会を加えた6学会の共催により、2年に1回ずつシンポジウムを継続的に開催し、異なる領域から多くの参加者を得て、“Design”をめぐる活発な議論の場を形成する上で大きな成果を上げてきました。

この流れを受け、異なる専門や立場の研究者、設計者、デザイナー、技術者などの多様な参加者による講演や議論を通して、“Design”という共通の問題に対する理解を深め、学術的、実践的な新たな横断の加速と、日本における設計とデザインを統合した研究の中心となるコミュニティの更なる発展をめざして、今回は初めて東京を離れ、歴史と文化の息づく京都という場所で、Design シンポジウム2012を開催致します。

本シンポジウムでは、一般講演のみならず、特別講演・招待講演、パネルディスカッションなど多様な企画による「議論の場の形成」を目指します。本シンポジウムをより有意義なものとするため、多数の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

2. 講演募集キーワード：

(1) 設計工学、(2) 設計論・設計方法論（デザイン論・デザイン方法論）、(3) デジタルエンジニアリング、(4) CAD/CAM/CAE、(5) 設計プロセス、(6) 設計知識・設計情報、(7) ナレッジマネジメント、(8) 情報管理、(9) 製品開発、(10) デザイン思考、(11) 設計組織・設計主体、(12) 設計場・設計環境、(13) プロダクトデザイン・マテリアルデザイン、(14) ファッションデザイン・グラフィックデザイン、(15) 情報デザイン、(16) 空間デザイン、(17) 建築・都市・ランドスケープデザイン、(18) システムデザイン、(19) メディアデザイン、(20) ソーシャルデザイン・コミュニティデザイン、(21) コミュニケーションデザイン、(22) コラボレーション・インタラクティブデザイン、(23) インターフェースデザイン、(24) コンピュータグラフィックス・VR、(25) アルゴリズムックデザイン・パラメトリックデザイン、(26) デザインと感性、(27) ユーザビリティ・ユニバーサルデザイン・エルゴノミクスデザイン、(28) DfX方法論・DfXツール、(29) ライフサイクルデザイン、(30) エコデザイン、(31) PDM、PLM、(32) プロダクトファミリー・プロダクトプラットフォーム、(33) 複合領域最適設計・ロバストデザイン、(34) システム工学、(35) サービス工学、(36) 発想・創発・創造支援、(37) イノベーション、(38) 学びと教育、(39) メタデザイン、(40) Designと価値・評価、(41) Designと社会、政策、文化、歴史、哲学、(42) 設計科学（デザインサイエンス）、(43) その他

3. 講演形式：

口頭発表とします。※PC用プロジェクターは利用可

4. 講演申込要領：

講演申込は電子メールで受け付けます。Subject名を「Design シンポジウム2012講演申込」とし、(1) 題目、(2) 登壇者・連名者の氏名（登壇者に*印）、共催学会員の方は学会名・会員資格、(3) 所属機関名・所在地、(4) 連絡先氏名・住所・電話番号・FAX番号・電子メールアドレス、(5) 該当する講演募集キーワード（3つ）を記載した電子メールに、A4判で2頁以上（図表等含む）の講演概要をPDFファイルにして添付して提出下さい。

5. 講演申込期限：

2012年6月1日（金）

※申込は、5月1日（火）から受け付けます。

6. 採択通知：

Design シンポジウム2012運営委員会にて、提出された講演概要の内容を審査のうえ、2012年7月20日（金）頃に通知いたします。

7. 最終原稿：

採択された講演は、Design シンポジウム2012運営委員会の指定した書式に従い、原則としてA4判4枚（ただし最大8枚まで可能）の論文として最終原稿をご作成いただきます。

最終原稿提出期限：2012年9月3日（月）

9. 講演申込・最終原稿提出宛先：

Design シンポジウム 2012 運営委員会に宛てて、下記 E-mail アドレスまで電子メールにて提出して下さい。

E-mail: ds2012@aij.or.jp

10. 参加登録：

事前登録は行っておりませんので、当日受付にてご登録ください。なお、参加費のお支払いは現金のみとさせていただきます。

共催学会員・正会員	10,000円（論文集1部含む）
学生会員（登壇者）	5,000円（論文集1部含む）
学生会員（聴講のみ）	無料（論文集なし）
非会員	13,000円（論文集1部含む）

なお、懇親会を開催する予定です。懇親会参加費は、参加登録者（聴講のみの学生会員は除く）は無料の予定です。

11. 著作権：

Design シンポジウム2012運営委員会では、著作権については、

幹事学会である日本建築学会の以下の規定を準用します。

(1) 著作権は著者に帰属する。ただし、著者は掲載された論文の著作権の使用を日本建築学会に委託する。日本建築学会は、第三者から複製・引用・転載に関する許諾の要請があった場合は、原著者に連絡し許諾の確認を行う。

(2) 編集出版権は、日本建築学会に帰属する。

(3) 著者が、自分の論文を自らの用途のために使用することについての制限はない。ただし、掲載された論文をそのまま他の著作物に転載する場合は、出版権に関わるため、日本建築学会に申し出る。

12. 電子形態による公開：

Design シンポジウム2012にて発表した論文は、ウェブサイトから公開することを検討中です。

13. Webページ：

特別企画などシンポジウムの最新情報は、順次、日本建築学会内の Design シンポジウム2012特設ページ（URL : <http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s22>）上に掲載しますのでご覧下さい。

14. 問い合わせ先：

〒615-8540

京都市西京区京都大学桂

京都大学大学院工学研究科建築学専攻

門内 輝行（Design シンポジウム2012運営委員会委員長）

Tel&Fax: 075-383-2927

E-mail: ds2012@aij.or.jp

第59回春季研究発表大会会告

第59回春季研究発表大会を、下記要領にて開催することになりましたので、ご案内申し上げます。
多数の会員の皆様のご参加、ご発表をお待ちしております。

日程：2012年6月22日（金）～24日（日）

会場：札幌市立大学 芸術の森キャンパス（札幌市南区）
（初日は札幌市立大学 サテライトキャンパス（JR札幌駅前）16F）

主要日程（予定）：

発表申し込み期間 3月1日～3月31日

概要集原稿の投稿期間 3月1日～3月31日

参加申し込み期間 5月1日～5月30日

幹事校 Web サイト

<http://www.jssd59th.scu.ac.jp/>

J-STAGEでの論文全文PDFの閲覧方法について

日本デザイン学会論文審査委員会

日本デザイン学会研究論文集「デザイン学研究」は、第58巻5号よりJ-STAGEを利用した掲載論文の公開を行っております。論文掲載後一定期間は、購読者番号とパスワードによって論文全文の閲覧を制限しておりますので、会員の皆様に限り、認証制限期間でも論文全文を閲覧できるよう、購読者番号とパスワードをお知らせします。

購読者番号：jssd2012

パスワード：dssj2012

日本デザイン学会研究論文集「デザイン学研究」URL：
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jssdj/-char/ja>

献本御礼

◆報告書

- ・研究報告 No.6, 2011, 長野県工業技術総合センター
- ・J-STAGEニュース No.30, 2012, 独立行政法人 科学技術振興機構

◆紀要

- ・四国大学紀要, 2011, 四国大学

募集内容

財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）
2012年度検定概要

◆検定の名称・等級

- CGエンジニア検定 エキスパート・ベーシック
- 画像処理エンジニア検定 エキスパート・ベーシック
- CGクリエイター検定 エキスパート・ベーシック
- Webデザイナー検定 エキスパート・ベーシック
- マルチメディア検定 エキスパート・ベーシック

◆主催実施者

財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）

◆検定実施日・場所

試験日：

前期検定 2012年7月8日（日）

後期検定 2012年11月25日（日）

場所（予定）：

全国47都道府県の高校・専門学校・大学等約300会場

◆後援名義の使用方法

受験案内、ポスター、チラシ、Webページ、検定関連書籍等への後援表記

◆検定受験案内のWebページ

<http://www.cgarts.or.jp/kentei/index.html>

催し物

ボストン美術館日本美術の至宝 特別展

- ◆会期：
2012年3月20日（祝・火）～6月10日（日）9:30～17:00
- ◆会場：東京国立博物館平成館
- ◆主催：東京国立博物館，ボストン美術館，NHK，NHKプロモーション，朝日新聞社

「織」を極める 人間国宝 北村武資展

- ◆会期：
2012年2月7日（火）～4月15日（日）10:00～17:00
- ◆会場：東京国立近代美術館工芸館
- ◆主催：東京国立近代美術館

生誕100年ジャクソン・ポロック展

- ◆会期：
2012年2月10日（金）～5月6日（日）10:00～17:00
- ◆会場：東京国立近代美術館本館企画展ギャラリー
- ◆主催：東京国立近代美術館，読売新聞社，日本テレビ放送網

原弘と東京国立近代美術館 デザインワークを通して見えてくるもの展

- ◆会期：
2012年2月3日（金）～5月6日（日）10:00～17:00
- ◆会場：東京国立近代美術館本館2階ギャラリー4
- ◆主催：東京国立近代美術館

第1回 JACI/GSC シンポジウム（第12回 GSC シンポジウム） 新化学技術が拓く豊かな未来社会 —エネルギー・地球環境問題の解決を目指して—

- ◆日時：
2012年6月12日（火）10:00開始・13日（水）9:30開始
- ◆会場：ベルサール神田
- ◆主催・お問い合わせ：
社団法人 新科学技術推進協会 <http://www.jaci.or.jp>

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAX または

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届」と書き添えて、

事務局までご連絡下さい。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局

会員の移動

◆平成23年度第五回理事会承認 2011.11.12

[新入会] 正会員12名(内外国人3名)

井上 滋樹	入澤 裕介	木村 幸央
近藤 晶	高橋 春香	塚本 千晶
土田 泰子	長谷部 勇人	細田 彰一
張 伊欣	Deny Willy Junaidy	蘇 沛琪

[退会] 正会員 11名(内外国人1名)

暮橋 昌宏	小向 貴大	杉浦 由季恵
長岡 恵美	中村 宗一郎	姫野 剛
堀家 裕一	村上 江理子	勇木 徳仁
横尾 俊輔	李 昭賢	

◆平成23年度第六回理事会承認 2011.12.19

[新入会] 正会員7名(内外国人1名)

上野 明也	佐々井 俊文	平澤 祐子
平山 広孝	山田 眞紀	山本 匡人

Jirayu Pongvarut

[退会] 正会員 10名

板垣 恵子	大釜 敏正	大橋 裕太郎
神山 明	篠原 利朗	渋谷 滋
鈴木 亜弥	永崎 通久	深津 誠

ムラカミ ヨシコ

◆平成23年度第七回理事会承認 2012.01.21

[新入会] 正会員6名(内外国人1名)

岡 進	國島 丈生	笹野 正和
真保 晶子	平光 睦子	Jinyung Jung

[退会] 正会員6名(内外国人1名)

遠藤 善道	楠田 一夫	香村 翼
齋田 正幸	澤村 英子	頼 瓊琦